

探鳥会報告2016

【目的】 野鳥の生息状況を調査する

【調査地域】 裏磐梯地区

【結果・考察】

春・夏



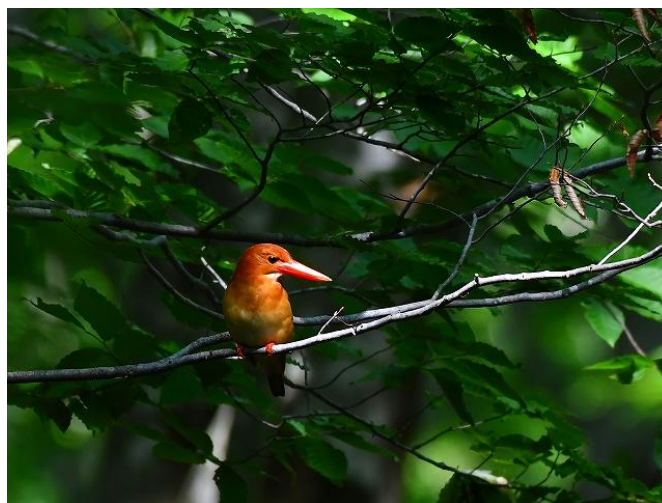
オオジシギは、檜原湖東側で少数の飛翔を確認した程度で、他には檜原湖西岸の細野地区でも確認できなかった。裏磐梯が森林化してきたと思われ、今後は姿を消す鳥と思われる。

夏鳥は例年通りの飛来状況。

今年もミサゴの営巣を確認できた。

また、今年初めてサンコウチョウの繁殖を確認し、左の通り写真も撮影した。

サンコウチョウがアカショウビンやカラスに体当たりして蹴散らしていた様子が確認でき、荒い気性であることが伺えた。



秋・冬

9月の中頃に南に帰る途中のエゾビタキを確認したが、すぐに通過してしまった。ミズキの実が少なかったためと思われる。野鳥は餌がなければ留まることがないことを再認識した。

冬は、温暖化の影響のためか、冬鳥の飛来が遅れ、また大陸からの爆弾低気圧が来ないこと、木の実が少ないことなどから、全般に飛来数も少なかった。レンジャクに関しては、12月頭に150羽が入ったが、一ヶ月ほどで裏磐梯から抜けたようである。

オオマシコは、去年30羽ほどが冬じゅう確認できていたが、今年はキハダの実が少ないため、11月に一瞬通過した程度で他には確認できなかった。



また、マヒワの群れも例年に比べるとかなり少なく、ベニヒワの到来も確認できていない。

総評

夏鳥は例年通りの状況だが、冬鳥は餌の多寡が飛来数に大きく影響するものと思われる。



ノスリ幼鳥

【概要】

(1) 調査実施日

第1回	平成28年	2月	2日
第2回	平成28年	3月	9日
第3回	平成28年	3月	17日
第4回	平成28年	4月	13日
第5回	平成28年	5月	10日
第6回	平成28年	6月	9日
第7回	平成28年	9月	26日
第8回	平成28年	10月	19日
第9回	平成28年	11月	7日
第10回	平成28年	12月	7日

(2) 調査者

裏磐梯エナガの会

以上